

公表：令和 3年 4月 1日

事業所名：箕輪町こども発達支援事業所 若草園

		チェック項目	は	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が訓練指導室等スペースとの関係で適切である。	2	5	提案：狭さをどう生かすか。 工夫：一日の流れを見直し 動線と環境 の見直しから今年度より プレイルームとランチルームの場所を交換した。	課題 ○下の子の託児があると母が通園児としっかり向き合えると思う。 ○動きの激しい子と静かな環境が必要な子がいるため、部屋を仕切ることも難しいが部屋数が少ない。 ○個室のスペースが必要。 ○登園人数が多いときはスペースの狭さを感じる。 ◆新型コロナの感染症拡大状況、予防対策を施しながら託児ボランティアの再開の検討をしていく。 ◆療育・相談環境について施設内の配置、パーテーション、ロッカー等の配置を工夫して個室を確保、配慮できるように検討する。
	②	職員の配置数は適切である	3	4		課題 ○兄弟・姉妹を連れてきた時にはその子たちを見る職員も必要なため人数が足りていない。 ○児童発達管理責任者も入って保育を回している状態は適切ではない。 ○単独通園の子が多いため登園人数が多いときは職員が足りないと感じることがある。 ◆施設環境と職員配置数から考えるとスケジュールの工夫などで対応を検討する。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		環境：下駄箱近くにはスロープがついている。プレイルームとランチルームに分かれている。	

	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	7		衛生：玩具や遊具など職員、利用者が触れる場所は毎朝消毒を行っている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		○今年度より懇談会を実施。	◆職員と保護者、個別支援計画、保護者と担当課、保護者と理事者等との懇談会も定期的を実施し、保護者のニーズを定期的を確認する。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	5		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1		◆児童発達支援施設として必要な自己研鑽や知識、及び他施設との交流を兼ねた研修を進める。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			◆個別性を考えながらも集団保育への移行のみでなく、個々に合わせた支援を児童発達支援管理責任者、担当職員、保護者と密に情報共有し対応をする。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		◆個別性の観点から保育職で日々の様子から発達段階を推測できる観察評価シートを検討する。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	3		◆⑩に準じて保護者を含めた子どもの成長を支援するチームとして支援計画を考えていく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			◆今の活動形態は以前の子どもたちの集団特性から作成されたものであるのでその年の集団・個に合わせた活動形態を考える。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7			
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	2	○その日の中心活動の内容や子どもの支援については毎朝打合せをしている。	◆外の外部専門職を交えた情報共有も必要なのでR3年度は実施する方向で進める。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2		○勤務時間や子どもの午睡の状況で打ち合わせをすることが難しいことがあるが、できる限り職員間で話し合えるとうい。 ◆短時間でも良いのでその日に計画をしていたことや観察視点からの様子や反省点、共有する視点を伝える時間を持つようにする。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		○日々の記録は保護者も見られるものなので細かく記入するようにしている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6			反省 ○児の欠席等でモニタリングの期間が空くことがあり計画通りに進めなかった。 ◆エンデのモニタリングが難しい場合は家庭訪問をしての面談も検討する。
関係機関や保護	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1		◆医療的ケアの必要な子どもの支援会議には看護職の参画も考える。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			◆発達支援専門員、地区担当保健師との連携を今後も随時図っていく。

	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7			◆必要に応じて、積極的に医療との連携を口頭でとることは必要。ただし必ず記録としては残す。 ◆新型コロナの終息、感染拡大が収まりつつあれば機会を見て医療機関受診時に主治医、リハ担当との連携を図ることも検討。
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7			反省 ○コロナの為、医療機関と一緒にいけないことがあった。 ◆上記同様。
	㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と目互理解を図っている	7			
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と目互理解を図っている	7			
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			◆次年度は今年度以上に感染予防を図りながら見学に行くことを検討する。
	㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6	1		
	㉖	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	1		◆職員間で施設に通う子どもたちの取り巻く社会環境を知るうえで、担当に分けて参加をしていく。
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			◆保護者との共有は大切なので積極的に行うと共に職員間での共有を図る。そのためには、保護者に必ず共有しても良いかを確認する意識を持つ。
	㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4		◆保護者同士の悩みを共有したり、課題を共有する機会が少なかったため、次年度は検討していく。
保護者	㉙	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			

	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する目談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			課題 ○保護者が本音を伝えてくれる関係を築けられたのか。関係作りが課題である。 ◆課題を共有し次年度の職員体制の中で意識して関わるようにする。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2		◆父母会はないが保護者同士の時間を設けられるように検討する。
	③⑥	子どもや保護者からの目談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、目談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			◆あゆみの内容の充実と看護職からの発信も検討する。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			◆施設環境を全職員が考え、大声での指示や指示の重なり、過度な声がけに注意し活動を進める。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5		◆新型コロナウイルスの感染が収まれば積極的に実施していく。
非常時等の対	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			◆マニュアルについては国から様々な災害等の対応児のマニュアルが出されるので、保育園、園長会、担当課と連携しながら策定し、火災、地震を想定した避難訓練だけでなく、水害、土砂災害なども視野に入れた避難訓練も入れて行くことを検討する。

④②	非常災害の発生に備え、定期的 に避難、救出その他必要な訓練 を行っている	7			◆上記同様。
④③	事前に、服薬や予防接種、てん かん発作等のこどもの状況を確 認している	6			
④④	食物アレルギーのある子どもに ついて、医師の指示書に基づく対 応がされている	7			○今年度対象児はいない。 ◆入園面接のときにしっかり把握し、必 要に応じて医療や管理栄養士の面接を 入れて把握し、事故防止につなげる。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事 業所内で共有している	5			◆今年度は2回ヒヤリハット事例があっ たので、職員間で徹底すると共に保護 者にも注意喚起を発信する。
④⑥	虐待を防止するため、職員の 研修機会を確保する等、適切 な対応をしている	3			◆圏域内の研修に計画的に職員の参加 を計画する。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身 体拘束を行うかについて、組織 的に決定し、子どもや保護者に 事前に十分に説明し了解を得 た上で、児童発達支援計画に 記載している	2	4		○今後実施(計画に記載)

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価を集計し、町ホームページの若草園に関するページにて公表をさせていただきます。なお、記載内容等に特定の個人を想起できる内容等があった場合は、担当課にて削除、修正してホームページに掲載をさせていただきます。